

自立支援部だより

～みんなで考えよう 特別支援教育の専門性～

2023年9月28日 第2号
むこがわ特別支援学校

昨年度から引き続き、「個への支援」と「集団への支援」の授業づくりを考えていきます。教科領域担当者会での話し合い、アンケートの回答もありがとうございました。友だちの姿を見て学ぶ、他に関心を持つということも大切な学習ですが、根本的に学習機会を増やすということも必要です。活動量を増やすアイデアをみなさんと共有し、今後の授業づくりに役立てていけたらと思います。

『子どもの活動量を増やす（＝待ち時間を減らす）』

授業の工夫・アイデア

～アンケート集約より～

○体育

- ・ダンスや玉入れ、綱引きなど全員が一斉に取り組める活動を行い、回数を行い、回数を重ねることによって活動量を増やす。
- ・ユニット対決などを行い、全員が1つの競技に一斉に取り組む。
- ・学年を2グループに分け、2か所で活動することによって待ち時間を増やす。
- ・サーキットをクラス単位で行い、待ち時間を減らしている。
(待ち時間も友だちを見たり、応援したりと活動の1つと位置付けている)

○図工、美術

- ・作品作りの順番待ちの時は、描きこめる絵本を活用。(安全に1人で過ごせる)
- ・写す、塗る等、実態に合わせた教材を準備する。
- ・鑑賞の時間を入れる。(全員が友だちの作品を見る)
- ・教科書を使用してよい時間を作る、作品の量を増やす、自由時間を楽しむ。など

○職業、家庭

- ・一通りの作業工程を一旦、全員が経験したうえで適性に合わせて分業制にする。
- ・順に次の作業に移れるように段取りをしておく。
- ・同じ材料を生徒数を用意する。

○総合的な学習の時間

- ・紙すきでミキサーを使うなど台数が限られおり、待ち時間が生じる場合は、紙ちぎりやフィルムはがしなどで一人ひとりできる作業内容を用意し、同時並行でみんなが何かできるようにする。
- ・畑の作物を収穫するとき、2種類の作物2クラスずつ(ユニット)同時にし、教室待機時間を減らした。

○生活単元学習

- ・(小低) クイズを多くして全員参加。服たたみなどはグループ分けし、ブースごとにする。
- ・(小高) 教材を多く作って、全員できるようにする。
- ・食育などは説明している間に野菜を触ったりできるようにした。
- ・(中) カレンダー、新聞づくりは、個人やクラスごとに全員で作る。▶早く終わっても色塗りや手先の作業やシール貼りなどをする。
- ・事前学習などで説明が多くなる時も全員参加できるクイズを入れる。
- ・クイズを入れ、クラスで答えを考えて出す。
- ・畑などはユニットでする。

○ことばかず・国語数学

- ・無料のアプリを利用する。なぞり書き等をタッチペンで行う。活動が早く終わった子にはなぞり書きで対応。書き間違えたら次にはいけないようなもので、正解するまで繰り返せるので教師が傍にいらなくてもできる。
- ・本の読み聞かせを行う際にも、児童生徒が動く場面を設定している。ただ受動的にじっとしていることがないようにしている。
- ・嫌だという生徒にも違う役割を持たせている。かるたをする場合、集団でやるのが嫌だったら読み手をするなど。
- ・個別の時間を取って設定せずに集団で学習に取り組んだ後すぐに、その内容を個別で実施している。

○音楽

- ・ほぼ全体授業なので、前に注視し続けることが難しい生徒がおり、できる限り活動に参加できるように（前に注目できるように）テレビ以外にペープサート等の教材を用意した。
- ・前に出る児童生徒だけでなく、待ち時間も楽器や手拍子を一緒にする。
- ・短時間で座席の端から順番に楽器をならすようにした。（期待して待つ時間にする）
- ・全員で一斉に取り組める内容を多く取り入れる。（鈴ロープ、ビッグスカーフ、手持ち楽器を使う）
- ・サブの教師がそれぞれ個別に手本を示すことで全体指示で活動することが難しい生徒の活動を促す。（個に合わせてたステップで考え、評価していく）
- ・今後、2つのグループに分けて活動する機会を作っていきたい。

購入図書の紹介

*機能的アセスメント(行動のとりえ方)やPBS(ポジティブな行動支援)についてわかりやすい本ですスタディパックは DVDビデオ教材付きです。

